

第10回生涯学習センター運営協議会

〔日 時〕2013年1月29日（火）14:00～17:00

〔場 所〕町田市民文学館 第6会議室

〔出席者〕※敬称略

委 員：石川 清（会長）、小川 久江（副会長）、岩本 陽児、押村 宙枝、川島 演、黒田 純子、
佐合 昭浩、辰巳 厚子、富川 尚子、西原 要四郎、柳沼 恵一
以上 11名

事務局：熊田センター長、小林課長補佐、外川統括係長、松田担当係長、丸山主事（記録）

〔欠席者〕菅谷 万里子、竹葉 かほる、中村 香、並木 修

〔傍聴人〕0人

〔資 料〕・第10回生涯学習センター運営協議会レジュメ

- ・2013年度まちだ市民大学HATSプログラムの企画について
- ・2013年度ことぶき大学コース一覧
- ・生涯学習NAVIについて
- ・生涯学習NAVI好き！学び！2・3月号
- ・2012年度生涯学習センター事業企画書兼事業評価シート資料1～10
- ・2012年度生涯学習センター事業企画書兼事業評価シート報告1～24
- ・生涯学習ボランティア登録説明会（案）
- ・平成24年度東京都家庭教育支援基盤形成事業実施要綱
- ・センター長報告
- ・平成24年度東京都公民館連絡協議会委員部会第3回研修会のご案内
- ・トリターマ

<協議事項>

1. 2013年度市民大学事業について

事務局：講座名については、現在プログラム会議で検討している。この通りにならないものもある。例えば、人間関係学は、「命と人権」という講座名にしようか検討している。3月11日の広報まちだに掲載できるように準備を進めている。次回の生涯学習センター運営協議会で確定したものを提案したい。全体として変わったところは、各講座回数を減らしている。

（意見・質問）

会 長：人間科学について、どういう議論があるのか。

事務局：内容として、これまで医療や死等について取り組んできたが、科学をもう少し違う言い方ができないかという議論がある。iPS細胞等、最新の話題を取り入れているが、あまり変わっていないという批判もある。そういったところで変化を加えることも加味している。

会 長：集まりにくくなったということもあるのか。

事務局：少しある。講座によってバラつきがある。

委 員：技術学というのが目新しいと思った。ここには環境も含まれているが。

事務局：市民大学当初に作られた学習領域にあったもので、ここで改変したわけではない。

委 員：環境というと、町田では市民の中で放射能測定室を作るなどの積極的な動きがある。そういうところと上手にタイアップできると可能性があるのではないか。

委 員：他地域で市民大学と同様の事業をされているところはありますか。もしあれば、そのプログラムと比較して考えたことはあるのか。

事務局：相模原は大学の講座とリンクしている。相模原・座間地域の市民大学ということで、直に大学に行く形である。さがまちコンソーシアムが受託し、受付等を行っている、内容は市民が入って作っていく形ではない。他の市町村では、一部で市民が入って実施しているところもあるが、

大学の講座とセットにしているところが多い。町田のように、独自に委員を集めてプログラムを組み立てるのはめずらしいようだ。

委員：プログラム面はどうか。市民大学と同じようなものが多いのか、それとも大学の特色によって違うのか。

事務局：大学の特色を活かしながら行っている。中身は大学の講義の延長線上のようである。

委員：市民大学も市町村の規模や歴史によって違う。大学は市民に開かれたということを目指しているのだから、大学と組んでいるところもあるし、市民から委員を公募し、中心となる市の職員と一緒に実施しているところもあり、それは様々である。

事務局：町田市民の利用を考えると、市民大学の他にことぶき大学、さがまちコンソーシアム大学がある。メニューが散らばっていて、そこから選べる形を目指している。それぞれに特色があり、その特色を明確にして実施していきたいと考えている。

委員：内容はプログラム委員の方が決めていると思うが、講師の方は「町田の郷土史は話す内容がなくなってきた」「一度話した内容について、どう変化したのかということしか言えない」「聞く人に失礼なことをしているのではないかと話していた。様々なテーマがある中で、変化していく状況を的確に講座に反映されているのか疑問である。

事務局：まちだ市民大学といいながら、町田で育ち生活している方より、外部からきた人たちのニーズの方が多く、定員割れをしたことはない。郷土史については、去年受けた人には遠慮してもらっている。町田を知る為の第一歩として郷土史講座があり、今年度についても通史は変えない。工夫した点は、今までは夜に開催していたのを、来年度は土曜日の日中の開催に変えた。プログラム会議では、参加者の環境を緩和し、変化を見ようという議論がされている。

会長：郷土史講座や環境講座を卒業して育っていると思うので、同じものをずっと繰り返されてもかまわないと思う。スキルを持っている人たちの要望に応じる必要はないと思う。

委員：東大和市は、今年の4月から市民大学を開設したいということで、他市を参考にしながら検討している。それは、公運審の中で検討して進めるようにと行政からの要請があって、「市民大学をどう立ち上げていくかを悩んでいる」と話していた。町田市は20年前から実施し、非常に先進的な取り組みをしていて、コース数も多い。大切に育ててほしいと思う。

委員：この頃IT技術がどんどん進化している。先だって和光大学では、原発に関わる学習会、映画の上映会とシンポジウムを開いた。そういうものをネット上にあげるのが当たり前になっている。公民館で行われる学習をその場に行けなかった方とも共有できるようなしかけができれば良いと思う。また、市民大学は20周年を迎える。記念冊子を作るのはどうか。節目のときであるので、冊子を作ることによって、今まで実施してきたことを再確認し、みんなで共有しながら先の展望を作っていくのも一つの作戦だと思う。

会長：何か作らなかったか。

事務局：社会教育委員の会議から、市民大学や公民館の今までの歴史をまとめ、記録を作っていくことが必要だという提言をいただいている。

委員：2006年度と2008年度に市民大学修了生のつどいを行った。そういったものが節目のときにあってもいいと思う。その点もご配慮いただきたい。

会長：協議事項2の前に、2013年度ことぶき大学の事業計画について協議する。

事務局：ことぶき大学は、主目的として年配の方のひきこもり対策、趣味・教養等を重点的に行ってきた。定員の少ないコースは、毎年2倍から4倍の応募があった。来年度はできるだけ多くの方に提供したいと考え、コースの見直しをした。文学、歴史、美術、音楽コースについては、来年も同様に実施する。新設したのは、世界遺産、健康、暮らしと経済コース。健康コースは年配の方からの要望が多くあり、体を動かすことを中心に行う。人数は各50名、前期と後期で同じものを行う。3月に前期、後期とも募集する。暮らしと経済については、年配の方も興味ある分野だと考えている。朝日新聞で講師派遣制度というものがあり、様々な分野の記者や論説者等を派遣していただける。全コース、6回講座で定員154名。6月から12月に実施する予定である。

副会長：ことぶき大学に参加する方の平均年齢はどれくらいか。

事務局：70歳くらいが平均になる。80代の方もいる。

事務局：平日の昼間に実施するので、時間的な問題もある。歴史コースは、講師との折衝の中で土曜日開催になった。

会 長：朝日新聞社の講師派遣制度について、予算的なメリットはあるのか。

事務局：市町村の事情に合わせて考慮していただける。講師謝礼基準にのっとって謝礼を支払いたいと思っている。

2. 生涯学習NAVIについて

事務局：来年度も今年度同様に隔月発行したい。コラムページを運協委員に執筆していただいているが、できれば全員に執筆していただきたい。まだ執筆していない委員の方をお願いしたい。

市民編集委員について、現在、生涯学習センター事業をトピックスページで紹介している。このページを市民に編集委員として入っていただき、様々な生涯学習を取材して、市民目線で記事を執筆・編集していただければと思っている。2014年度から公募していきたい。2013年度はそれに向けての準備をしたい。公募する目的は、講座や講演会の取材記事を掲載することで、読み物のページなどの情報以外のページを充実させたい。NAVIの目的は、市内各所にある生涯学習を広めていくこと、それは生涯学習センターの役割でもあるので、様々な場所で行われている生涯学習を取材し紹介することで、市民の学習の視野を広げていくきっかけになれば良いと思う。役割は、生涯学習センターで実施する事業や市内のイベントを取材して、原稿の執筆や編集をしていただくこと、月1回の編集委員会に参加することである。人数は3名から5名以内。予算化していないので、無報酬である。2014年度の一般公募に向けてのスケジュールと2013年度の内容案は資料のとおりである。

(意見・質問)

会 長：全体の編集ではなく、トピックス記事の編集ということか。

事務局：全体ではない。このNAVIは町田市民が参加できる事業を紹介するのが主となる。読み物ページを充実したいと思っている。職員の力では偏りや限界があるので、そこを市民の方と一緒に編集していければいいと思っている。

会 長：トピックスは実施した講座を紹介しているのか。

事務局：報告になる。講座の担当者が記事を書いているものと、NAVI担当職員が取材して記事を書いているものがある。

会 長：今のNAVIは、情報ページと報告記事の区別が分からない。メリハリがあればいいと思う。情報が最初にあって、後に報告記事を掲載したらどうか。

事務局：情報がある中にトピックスやコラムがあることでパンチを効かせている。編集委員の方からそういった意見も出していただきたい。現在のNAVIについても、変えたほうがいいところがあればご意見をいただきたい。ただ、非常に短期間に原稿を集め、編集しなければいけない。

会 長：主旨や編集委員の必要性は理解した。2014年度からは公募になり、2013年度は生涯学習センター運営協議会委員から編集委員を担っていただいて、将来的にはその人が格になって市民も入れていくというイメージで良いか。以前は市民から募っていたと聞いたが。

事務局：「公民館だより」では編集委員を5名の方をお願いしていた。3名は公募、2名は公民館運営審議会委員の方だった。今回は公募の仕組みを作る関係もあり、2013年度は協力いただけの方をお願いしたい。生涯学習センター運営協議会委員の方であれば生涯学習センターのことをよく知っているの、取材がしやすいと思い、声をかけさせていただいた。「公民館だより」のときは月1回の編集会議を行い、交通費程度の謝礼を支払っていた。2013年度は無報酬になる。

委 員：2014年度からは、交通費程度は支払われる予定なのか。

事務局：これは確約できない。

委 員：今決めないと間に合わないのか。

事務局：日程的には、次回の生涯学習センター運営協議会までに決められればと思う。

委 員：情報収集は事務局がして、その一覧の中からおもしろそうなものを選んで取材する等、そうい

った役割分担がはっきりしていると良いと思う。

委員：来月までにはっきりしたものを出していただきたい。

事務局：自分でみつけてくるだけではなく、事務局側から情報を出して、その中から選んで取材をしていただくことも考えている。

委員：その情報の範囲は町田市内なのか。自分で学んできた全国的なこと、世界的なものと様々あると思う。その範囲はどの程度まで取り入れるのか。

事務局：町田市のことが中心になる。他でも参加した場合は、報告に入れてもいいと思う。

副会長：枠を超えて、学生たちが自主的に行っているおもしろいことや発想したこと等を取り入れて、町田ではこういう活動をする学生や市民がいることを発信すれば、与えられたことを取材するよりも若い人たちがやってみたいとなるかもしれない。運協委員が入るよりもここの委員が関わっている方の中から、そんな発想する方を入れたらどうか。

事務局：生涯学習センターの活動団体や大学関係者等を含めて、そういう方に編集に携わっていただければと思っている。

会長：市民大学の修了生が集まる機会がある。自主的に冊子を作っているが、他の人に伝えることはあまりなかった。情報があって、それをまとめることは得意だと思う。

委員：市民大学の修了生の連絡会をネットワーク化しようという動きがある。生涯学習センターの情報等を共有できるようにしたい。何かいい方法がないかと考えている。この仕組みができれば、要望があったときに情報がスムーズに流せるので、頑張って作っていきたいと思う。

会長：専用ホームページに受講生の感想等を載せられるページができ、コーディネートがWEB上でできるようになると良いと思う。

委員：川崎市で同様の定義をしたことがある。しかし、市役所のサイトはセキュリティの問題があり、外部からの投稿が難しい。2本立てで何か方法がないか探しているところである。町田でもできればいいと思う。

「生涯学習NAVI」は市のホームページでも見られる。障がい者の学習保障という問題で、テキストファイルであれば、全盲の学生は自分の持っているパソコンで読むことができる。自治体のホームページでは読み上げ機能がついているところもあるが、町田はどうなのか。PDFでは読み上げがされない。目の見えない人に対して、学習情報をどのように提供していくのか。もう一つ、耳の聞こえない人への対応はどうか。まちだ市民自治学校では、毎日新聞社の方に被災地の状況について講義していただいた。そのときに要約筆記をしてもらった。ここ数年で急に耳が遠くなり、催しがあっても聞こえないという理由で足が遠のいていた方が参加されていたが、要約筆記があつてとても喜んでいて。町田市では要約筆記や手話通訳ができる方を派遣する制度があると聞く。生涯学習センターでもそういう方を活用したらどうか。これからの方向性の一つとして考えていただければと思う。

委員：町田市内の都立高校で手話を行っている高等学校がある。授業の一環でもいいから、手話を使う機会を与えてほしいという依頼をされたことがある。そういった場を提供して、どんどん活用していただければと思う。

事務局：それは野津田高校のサークルか。

委員：そうである。

委員：そういう方こそ、ボランティアバンクを作ったときに登録していただくと使いやすいのではないか。

委員：できあがったものをPDFにしてホームページ上に掲載するのではなく、例えば、情報が届いた時点でブログにあげれば、全部出来上がらなくても常時新鮮な情報がネット上で見られる状態になり、編集の手間が一つなくなると思う。情報が全部揃ったところで、その情報を繋ぎ合わせて冊子にすれば情報処理が楽になるのではないか。

会長：PDFとテキストの両方を掲載したらどうか。

事務局：市のWEBページに載せるためには、PDFにしなければいけない。生涯学習センターで新たにホームページができれば、様々な情報を様々な形で発信できると思う。

委員：生涯学習センター独自のホームページを持つことが重要だと考える。

3. 2012年度生涯学習センター事業の企画について

(1) 資料1 生涯学習センター1周年記念イベントについて説明。

(意見・質問)

会 長：会場はどこになるのか。

事務局：ホール、ミニギャラリー、学習室1・2、視聴覚室、調理実習室、6・7階の各ロビー。

会 長：確保してあるのか。

事務局：確保している。他の部屋は一般の利用者が使用する。

委 員：生涯学習センターや公民館を知らない方に対するアピールができれば素晴らしいと思う。是非盛大にしていれば良いと思う。欲を言えば、JR町田駅から生涯学習センターまで風船で道を作る等、目に見える形でのアピールができれば良いと思う。

会 長：広報まちだに掲載するだけか。

事務局：広報掲載以外は、チラシの配布、ポスターの掲示、ホームページへ掲載する予定である。

委 員：広報担当部長から1周年記念イベントに対する意見はあるのか。

事務局：そういう意見は聞いていない。

委 員：長崎県の北に社会教育で知られた町があり、そこに着ぐるみサークルがある。そういうサークルを町田でも育てられれば、イベントがあるときに活用できると思う。そういう社会参加の道もあると思う。

(2) 資料2 市民大学講座「今さら聞けない老いじたく」について説明。

(意見・質問)

委 員：とても大事なことだと思うので、大勢の方を集めていただきたいと思う。「生涯学習NAVI」に都公連の報告が書かれているが、石井山氏の話の中で主になったのは、被災地の公民館のこと。高齢者の方たちは公民館で学ぶことを楽しみにしていたが、津波で公民館がなくなり、その日常がなくなってしまったことによって、一気に老け込んでしまったという話を思い出した。2月11日に生涯学習センターで「老いじたく」の分科会がある。その会場でこの講座のチラシを配りたいと思う。相互乗り入れができると地域の生涯学習の質が高くなるのではないかなと思う。

事務局：福祉の講座への関心が少し薄まってきていると思われるので、是非参加していただきたいと思う。この講座に参加した方の感想を良く見ながら、来年度の講座にも反映していきたいと思っている。超高齢社会になっている現在、家族のことだけではなく、社会の中で一人の支援者になっていく意識付けが社会的には求められている。今回の講座ではそういった面を探していきたいと思う。

4. 事業評価について

(1) 資料3 市民企画講座「素敵な高齢期を生きる」について説明。

(意見・質問)

会 長：Bとしてあげられた理由について、どういう欠点があったのか。

事務局：募集人員の30名をもう少し増やせるのではないかとということとタイトルの的に女性の方が多くなったのではないかとということ。ファッション系の講座のようなタイトルだったので、男性の応募が少なかったのではと思われる。また、当日の参加者が少なくなってしまった。それらを含めて改善の余地があった。

委 員：男性の参加は何名か。

事務局：5名である。

委 員：社会福祉協議会のふれあいサロンなどでも問題になるのは男性の参加者が少ないことである。男性の参加者を増やすためにはどうしたらいいかが会議のテーマになる。5名の参加は少ないどころか多いと思う。

事務局：担当者は男女半々くらいの参加を見込んでいた。内容は男性も女性も対応できるようなもので

あった。均等ぐらいを想定していたので、このような評価となった。

委員：「素敵」という形容詞が男の人に響かないということか。

事務局：それは分からない。逆にこのタイトルだったので、5名も来てもらったのかもしれない。ファッションやスタイル等が内容にあったので、興味を持つ人が少なかったのかもしれない。

委員：応募者69名、受講者27名とあるが、応募は受けたが、39名は断ったのか。やや多めに、しかも男性を優先的にとったら良かったのではないか。

事務局：実際に参加したのは、1回目25名、2回目23名、3回目19名である。申込みは先着順である。後の39名の方は件数のみをカウントした。名前等は聞いていない。

委員：このテーマはとても魅力的だと思う。内容も今までにないおもしろいものだと思う。ライフスタイル全体を考えてみたい人のニーズに答えている部分もあるので、ニーズはあると感じた。

副会長：先着順にすると女性のほうが早いかもしれない。男性・女性に分けて申込みを受けたほうが先着順にするよりは良いと思う。男性にも来てほしいという思いがあるならば、男女に分けて先着順にすればニーズがあったのかもしれない。

事務局：他の講座にも言えるが、イベントダイヤルを利用すると、応募受付は平日からになってしまう。電話がかけられる時間帯に応募を開始したり、抽選申込みをしたりする必要もある。

委員：3名の方が1回も来なかったということか。生涯学習センター側の落ち度というより、当選したにもかかわらず来ない方の責任である。1回目に来て、2回目にくる熱意が続かなかった場合は、こちらの問題として評価せざるを得ないと思う。

委員：広報まちは、紙面の都合で必要最低限の情報しか載せてもらえないことが多い。タイトル、日時、場所しか載らないこともある。チラシは内容が詳細に見られる。応募してきた方が何を見て応募してきたのか、応募して来た方の情報量がその人によって違うと思う。例えば、タイトルだけを見て応募してきた方が実際に受講したときのギャップはあるだろうし、情報の載ったものを見て応募してきた方にとっては魅力的な講座だと思う。ただ、このタイトルで70名近い応募があったことは、ニーズはあると思う。

事務局：必要性はあると思っている。

副会長：目的があるときには、応募のしかたをただの先着順にするのではなく、別の方法も考えたほうが良いと思う。

委員：募集定員30名のところで30名しかとらないのはどうか。少し多めにとって良いと思う。当日欠席をする方もいるので、教室が有効に使えるやり方を考えられたらいいと思う。また、今回は倍以上の応募があった。大学には69名が入る部屋はたくさんある。交通の便の良い大学と信頼関係を取り、何かある際は施設を借りられるようになればいいと思う。学習者本意で考えていただければと思う。

会長：応募者の数に応じて、少し上乘せするような制度を作ったらどうか。

事務局：コンサートでは1割程度多めにとる。30名のところ、それ以上の定員を募集して、全員が来てしまった場合は消防法違反になってしまう。今回はたまたま27名の参加だった。あらかじめ多く取ることは難しい。市民企画講座だったので、予想しにくかった。

委員：鶴川駅の裏手に、川崎市の岡上分館がある。ここはよく空いている。川崎市と町田市は図書館の相互利用協定を結んでいる。生涯学習、社会教育分野でも協定を結ぶことができれば、いろいろと楽しむことができるのではないかとと思う。中長期的に考えていただければと思う。

委員：キャンセル待ちはしているのか。

事務局：している。この3名は連絡なく欠席をした。

委員：無料の講座の場合、こういうことはつきものである。例えば、申込みの際に1000円を徴収して、全講座終了後に返金する等、そういった対策が認められれば良いと思う。

委員：キャンセル待ちは出来ないのか。

事務局：キャンセル待ちはある。当日来ないケースが多い。

委員：当日、時間までに来なかったら、来ない方はその時点でキャンセル扱いにしたらどうか。これはやり方だと思う。

事務局：例えば、5分前に来なかった場合は、その方はキャンセルしたとみなして、キャンセル待ちの方に連絡するということが。

委員：そういう方法もある。

委員：募集の際、どうしても参加できないときは連絡してください、と事前をお願いしておけばいいと思う。

(2) 資料4 市民企画講座「アートの力、アートの可能性」について説明。

委員：以前にも市民企画講座でアートを取り上げたことがあるが、その企画団体とは違うところか。

事務局：市民企画講座でアート関係を扱った団体は、2団体ある。この団体は3、4回目になる。以前にも企画した団体である。

委員：参加者の年齢層はどのくらいか。若い方もいたのではないか。

事務局：大学生も参加していた。

委員：町田市在住の芸術家であり、身近で親しみもわく。

事務局：芸術学校の方のようだ。企画団体関係で、そういう方々に声をかけていただいたようだ。

委員：運営委員や講師との繋がりの中で若い方も参加されたということか。終わった後も、その繋がりを深めていく方向で、次の展開もあるのではないか。

事務局：市民企画の場合に多く見られるが、人が集まらず関係者に声をかけて人を集めることがある。

事務局：企画団体のアートネットは、以前実施した講座の参加者が集まって団体を立ち上げた。その団体でこの企画をしている。

委員：良い循環ができていると思う。

(3) 資料5 市民企画講座「知っとく なる得 介護のイロハ2」について説明。

(意見・質問)

委員：前年度はいつ頃やったのか。

委員：9月最終週の金曜日から10月にかけて全4回実施した。今年は介護月間である10月に行えたので、良いPRができたと思う。企画した根拠は、排泄に係る話があまり介護の中では取り上げられておらず、排泄の問題が一番ネックになっていると感じたからである。昨年度に実施したときはとても反響が大きかった。今年は別の角度から話をした。また、成年後見制度も変わってきているので、その辺の話も取り入れた。

会長：受講率だけをみるととても高い。

副会長：欠席したいという連絡もないのか。

委員：町田市の講座は欠席する率が高く、およそ3割の方が来ない。無責任に申し込んでしまうのかなと思う。申し込んでも、忘れてしまう場合もある。募集から講座初日までに時間があるので、開講前に市の職員に電話してもらったこともある。

委員：応募期間が3週間程度ある場合、同じ方が3回も申込みの電話をしにくることもある。

委員：適切なタイミングで、「講座が○月○日に始まります」という確認のお知らせをすることはあるのか。もしそういったお知らせをしているのであれば、「欠席の場合は必ず連絡をお願いします」という一文を入れたらどうか。

委員：応募はイベントダイヤルか。

事務局：生涯学習センターでの電話受付になる。少ない人数の場合は、生涯学習センターで受けている。

(統括)

委員：「欠席する際は連絡して下さい」と一言お願いするしか方法がない。イベントダイヤル受付の場合は、もっとキャンセルが出やすいのではないか。

(4) 資料6 市民企画講座「自分を大切にしよう」について説明。

(意見・質問)

委員：参加者の年齢構成はどのくらいか。内容を見るとかなり重要な部分を含んでいると思う。

事務局：資料がまだなく、詳細はお伝えできない。これは単独で受けても良い内容である。プログラム自体を一部改善しても良いと思われる。

委員：心理学を勉強している人たちが興味を引く内容であると思う。1つの回だけでも、心理学の講座がある大学にチラシを送って周知すれば、応募者数も変わったと思う。潜在的に受講生にな

る人たちがたくさんいるので、広報を工夫できたらいいと思う。

事務局：受講率について、初回のイメージとのギャップがあり、2回目は来ないという影響もあったようだ。

会長：市民企画の場合、講座回数の指導等をするのではないのか。

事務局：謝礼の金額が決まっている。だいたい4回分になる。

会長：3回講座だったら、もう少し受講率が上がるのではないか。

委員：来てくださる方は5回連続講座でも来てくれる。最初から来ない方は、連絡もなしに来ないことが多い。

会長：回数はそれほど影響がないということか。

委員：5回以上になると影響はあると思う。応募する方の7割から8割は広報を見て応募する。若い方は新聞をとっていないことが多く、あまり広報を見ない。若い方の目に触れることはあまりない。70歳代が一番多い。チラシを作っても、あまり活用されていない。先ほどの講座「アートのカ〜」はタイトルが長すぎて何をしたいのかが良く分からない。「素敵な〜」は女性をイメージする。「素敵な」を「豊かな」にすると男性も興味を持ったのではないかと思う。タイトルが一番悩むところである。

委員：市民企画全般に共通して言えることがある。例えば、ひと月に一回行う講座はなかなか参加できない。続けて3回実施したほうが来やすいのではないか。統計的に見ても一目瞭然であるし、年末の忙しい時期や子どもの夏休みの頃等、参加者が少なくなる時期も分かると思う。市民企画を持ってきた方にもそういったアドバイスをして、講座を組み立てるようになる必要があると思う。回を積み重ねていく講座やオムニバス形式で様々な先生方が入って講義する講座と講座の組み立て方によっても、回数や募集の方法が変わってくる。その辺も職員から企画者にアドバイスしていくことは重要ではないか。

委員：講座の実施期間の途中で連休が入ってしまうと、受講率が下がったりすることもある。そういうことを職員からアドバイスいただけたら良くなると思う。

委員：ノウハウがある人、ない人がいる。利用の手引きや「講座の作り方のコツ」といったものがあれば良いと思う。

委員：アドバイスをするために職員も関わっていると思う。市民企画をする方は慣れた方ばかりではなく、実行する力がない市民も応募してくる。そこで大事なのは生涯学習センター職員だと思う。他の施設で同じような時期・テーマで実施していないか等、そういったアドバイスは職員がきちんとバックアップして、市民と職員とが力を合わせてやっていただいたほうがうまくできると思う。

事務局：団体によって様々な方がいる。来年度以降の市民企画講座は、地域課題等の題目を出してその中からテーマを選んで講座を企画してもらおう等、少し内容を変える予定である。その辺でも工夫をしていきたいと思う。

委員：企画力のない団体には力のある職員をつけて、自分たちでできる団体には新しい職員が学ばせていただくというようにうまくマッチングできれば、職員も市民もお互いにレベルアップできると思う。

会長：ノウハウが蓄積できるような仕組みは大事だと思う。

委員：企画団体に対して、事業評価シートは開示するのか。

事務局：事業シートの一部を使って、事業報告を作成したいとは思っている。全部載せるかどうかは問題をクリアしていかないといけない。今のところは公表していない。

委員：企画団体に対して評価が示されているのかが気になった。事業評価シートは、企画した団体にとって次にステップアップするための資料になると思った。

(5) 資料7 小学生を持つ保護者のための家庭教育学級について説明。

(意見・質問)

委員：この講座に参加した。それぞれの内容は非常に良かったと思う。「話し合える仲間ができたか」という指標は低くなっている。講座の中で参加者同士が意見交換をする時間はほとんどなかった。そういう中で、この評価指標を持ってきたことはいかがか。参加者同士が受講した感想等

を話し合える時間があれば、もっと変わってきたと思う。

委員：子どもの教育についてのフォーラムが12月1日に東京都庁で行われ、それに参加した。その中で、家庭教育の難しさが盛んに言われていた。家庭教育とは親が子どもに日常の生活を教えることという感覚だが、どうしても子どもの将来を語る話題に転換してしまう。親自身が子どものときに教わったことを自分の子どもに教えていこうというのがあまり伝わってっていない。とても不安に思った。この講座を受けた方が家庭教育そのものをどう考え、受け止めて話しを聴くのか不安に思った。みなさんの意見をいただけたらと思う。

会長：この事業評価シートとは少し話が違う。

委員：小学生でも低学年と高学年では随分違う。その違いをテーマの中で感じられたことはあったか。

委員：自分の子どもがその場面に達する前に聴いた方が良いと思う。幼稚園の年長さんを持つ保護者の方が聴いてもためになる話だと思う。ただし、高学年の子の親が実践しても遅いことはない。ここから気持ちを切り替えることもできる。どちらかと言えば、低学年の子の親が聴いたほうがいい話ではある。どの学年の保護者の方が参加しても、それなりに得るものはあると感じた。

会長：担当者所見での評価についてはどう感じたか。

委員：小学生講座に参加したのは初めてである。初めて聴いたので、とても新鮮だった。初めて参加する人がほとんどであれば、講師陣が毎年同じでもそれは新鮮な話として受け止められるし、ベースが一緒でも最近あった事例を取り入れてお話していただければ、大事なことであるので、それはマンネリではなく普遍的に伝えていくものとして受け止められる。

副会長：保護者同士の交流ができればまた違ったかもしれないという部分では、話し合いの時間も持つことも必要ではないかと思う。その辺も考慮していただければ、より良くなるのではないかと思う。

会長：7回講座になったのは何か経緯があるのか。

事務局：ある団体がコーディネートした講座である。本来ならば職員が企画をするが、長くこの講座に関わっている団体と連携をした講座である。最初は10回講座であったが、10回は長いということで、7回にした。現在の小学生の保護者の方の関心が高いものをピックアップした。

(6) 資料8 子育てを楽しむ親力アップ講座について説明。

(意見・質問)

副会長：保育付きではなかったのか。

事務局：保育付きにはできなかった。

(7) 資料9 中学生を持つ保護者のための講座について説明。

(意見・質問)

会長：募集定員を上回っているがいいのか。

事務局：32名が応募されたので、少し多めにとった。

会長：それができるのであれば、1割程度多めにとっても問題がないのではないか。

事務局：50名の部屋を取っていたので、少し多めにとることができた。

委員：臨機応変な対応ができればいいと思う。

(8) 資料10 市民講座「がんの仕組みと治療」について説明。

(意見・質問)

委員：学生の受講はどのくらいか。

事務局：学生の参加はなかった。

委員：以前、和光大学で実施したときには、これまで生涯学習センターに来たことがない人たちが来た。何か呼ぶためのしかけができれば良いと思う。

委員：大学との共催事業は、お互いに相談しあって企画を練り上げていかないといけない。今後活かすとするならば、しっかりとした契約を事前に明らかにできて、一緒に協力していく方向にしていったほうが良いと思う。

事務局：今年度も2、3回話し合いをした。大学の体制も、内容については教授会で話されているようだ。場合によっては、そういった会にも参加していきたいと思う。

委員：関係を維持していきたいのであれば、多くの教授の方にも納得してもらう努力はする必要があると思う。

会長：大学側にもメリットがある。素人の方に分かりやすく教えるということは大事なことである。

5. その他

(会議について)

委員：生涯学習センター運営協議会が何を目的としているのか、何をメインに考えているのか。メインとなることに時間をとりたい。私たちは生涯学習センターがこれからどうなっていくのが良いのかという議論をするところに、一番力を入れたい。この評価シートは事前に配られ、目を通してあるので、事前に疑問点や意見等を出して、回答いただくのはどうか。全体を評価するほうが良いと思う。

副会長：生涯学習センター運営協議会が一番に何をしたいのかを考えたほうが良いと思う。

委員：時間配分を考えていただきたい。

委員：方法として、事前に目を通し、自分なりにチェックして意見を集約して来られれば時間短縮になるのではないか。

<報告事項>

1. 生涯学習ボランティアバンク制度について

事務局：27日にボランティアに対する説明会を行った。桜美林大学の宍戸先生を講師にした講演会を含めて実施した。個人15名、団体24名の全44名の方が参加した。本日から登録を開始している。現在のところ、1団体が3分野で登録をした。

(意見・質問)

委員：団体申込みの方法について伺いたい。

事務局：職員が事情聴取する。分野別になっているので、複数の登録ができる。1つの団体で出来ることがたくさんあれば、分野別に登録することになる。

委員：締め切り日はあるのか。

事務局：随時、受け付けている。職員が事情聴取しながら、登録申請書に記載していただく。

委員：予約はしなくていいのか。

事務局：時間内でお願いしたい。

会長：バンクのデータベースの作り方として、団体があって、団体のできることがあるのか。または、できることがあって、そこに団体がつくのか。シートの作り方はどうなるのか。

事務局：できることがあって、そこに団体がつく形である。

2. 平成25年度東京都家庭教育支援基盤形成事業費補助金に係る運営委員会の設置について

事務局：来年度に申請したいと思っている。事業費の3分の1を国、3分の1を都が補助する。家庭教育支援基盤形成は、家庭教育を支援する担い手を作っていく事業になる。家庭教育支援基盤形成を担う家庭教育推進委員会を設置しなければならず、また、その担い手を養成する講座を実施する必要がある。来年度の家庭教育支援の事業自体を進めるとともに、この補助金をもらうために、家庭教育推進委員会を立ち上げなければならない。中身としては、生涯学習センター運営協議会の役割と同様である。できれば、この委員会を生涯学習センター運営協議会にお願いしたい。補助金申請の申込みが確定するのは来年の8月以降になる。再来年度明けに申請という流れになる。

(意見・質問)

会 長：運営推進委員会の議事録はどうなるのか。

事務局：まだ細かい必要書類については分かっていない。

会 長：生涯学習センター運営協議会の時間帯を途中から家庭教育推進委員会に切り替える必要があるのではないか。

事務局：場合によってはその必要がある。

委 員：予算がつくのであれば、その道の専門家を外部から委嘱する手もあるのではないか。

事務局：他の市町村では部課長会を家庭教育推進委員会にしている例もある。公募等の準備もあるので、できれば生涯学習センター運営協議会にお願いしたいと思っている。

3. 事業評価の最終報告

24事業について評価した。1～7は市民大学事業である。改善点はあるが、必要な事業ということで継続していく。8～17は平和祈念事業である。11～14の事業は30周年非核平和宣言ということで他部署から補助金を受けて行った事業である。来年度の継続は難しいということで、D評価とした。18～24は改善しながら継続していきたいと思っている。

4. センター長報告

(1) 教育委員会について

1月18日に開催された。2013年度町田市教育委員会教育目標、基本方針及び施策方針について出され、教育委員会として可決した（資料参照）。関係項目は基本方針（4）になる。その他は学校教育部になる。教育プランや生涯学習推進計画を策定している。これをもとに計画していく運びとなっている。次回は2月1日に開催される。2012年度生涯学習センター事業について報告する予定である。また、3月15日の定例教育委員会では、2013年度の生涯学習センター事業について報告したい。次回の生涯学習センター運営協議会において、この2件について提出するので、協議をしていただきたい。

(2) その他

教育プラン検討会、生涯学習推進計画検討会について、素案を作成している。生涯学習推進計画は生涯学習センターが直接担当する。生涯学習センター運営協議会と連携を密にしながら策定していきたい。災害時の図上訓練や生涯学習ボランティアバンク登録説明会、消防訓練等を行った。今後の予定については資料のとおりである。

5. 東京都公民館連絡協議会の活動について

【役員会】

委 員：三多摩社会教育生涯学習施設連絡協議会の創設について東京都に働きかけることになっている。

【委員部会】

委 員：第3回研修会が2月17日に13時半から国立公民館で開催される。町田市の元公運審委員長の倉敷氏がパネラーの一人として参加する。また各市の運営について、「厳しい中での財政」ということで、様々な事例が取り上げられる。委員の方、職員の方、一般市民の方も参加できる。申込みは事務局までお願いしたい。

6. その他

特になし

次回の生涯学習センター運営協議会開催日について

2月24日（日）15時から17時 生涯学習センター視聴覚室